## 司法試験特集

#### 2022年の司法試験の結果について

2022年の司法試験において、本研究科の修了生は 111名が受験し、短答式試験の合格者が95名(受験者 の85.6%)、最終合格者が51名(受験者の45.9%)と なりました。なお司法試験全体では、受験者数3082人 に対して短答式試験合格者が2494名(受験者の80. 9%)、最終合格者が1403名(受験者の45.5%)でした。 法科大学院出身者では、受験者数2677人に対して 短答式試験合格者が2090名(受験者の78.1%)、最終 合格者が1008名(受験者の37.7%)でした。本研究科 修了生の成績は、全国平均を上回っています。

また昨年と比較すると、本研究科の今年の結果は、 合格者数(昨年47名)、合格率(昨年40.9%)ともに、昨年 を上回っています。また、直近年度修了者の合格率は 61.7%(60名中37名)と、3年連続で50%を超えました。

合格率の推移についてですが、2017年以降は40% 前後で推移していたところ、今年は約46%と一歩 踏み出たように思われます。上昇傾向にあるといって よいかは分かりませんが、もう少し高いレベルを実現 したいところです。

また、昨年低迷した法学未修者の合格率ですが、 今年は23.1%(39名中9名)と、昨年(15%)を上回ると ともに、全国平均(21.4%)も上回りました。ただ「未修 に強い阪大」としては、さらなる合格率の増加を目指し たいところです。

修了後1年目の修了生における学内成績と合否の 相関は、かなり顕著に現れました。本研究科における 日頃の学修が結果につながると考えておきましょう。

最後に、合格者51名中49名が1回目・2回目の 受験者でした。3回目以上の修了生に対するフォロー 体制も検討する必要がありそうです。

副研究科長 久保 大作

### 司法試験合格者体験談









## 「白分を客観視する」



2022年3月 法学既修者コース修了 野田 研人

私が司法試験合格に向けて最も大切 にしたことは、常に自分を客観視する ことです。司法試験は、8科目の法律

科目をバランスよく理解出来ているかを確かめる試験です。 合格を掴み取るには、自分の弱点とする科目・分野を客観的 に把握し、それらを改善していくことが必要です。

阪大ローには、親身になって質問に対応してくださる 先生方や、疑問点を議論し、切磋琢磨できる同級生がいます。 恵まれた環境の中で、自分の実力を客観視し、弱点を把握 する機会が数多く用意されています。私は、授業の予復習 や発言、定期試験の成績、学内での順位等を通じて現状を 多方向から分析し、「何を・どのくらい・どのような方法で 勉強する必要があるか」を考えながら学習計画を立てて いました。このようなプロセスを繰り返すことが、合格への 鍵になったと思います。

また、自分を客観視することは、精神面の安定にも つながると思います。ロースクール入学後、司法試験受験 まで2年以上にわたり勉強を継続するには、心身の健康の 確保が必須です。進むべき方向が分からないまま闇雲に 勉強していても、焦りや不安といった負の感情に押し潰され てしまいます。巷では、奇抜な勉強法が脚光を浴びやすい ですが、惑わされないでください。基本に忠実に、阪大ロー の質の高い授業をしっかりと自分のものにすれば、着実に ステップアップできるはずです。これから司法試験合格を 目指す皆さんには、ぜひ自己分析を大切にしていただき たいです。

#### 「再受験で意識したこと」



2021年3月 法学未修者コース修了 藤原 くるみ

私は2回目の受験で合格しました。1回目の 受験は不合格だったので、先生方にアドバイス を頂いて、泣きながら敗因分析をしました。分析

結果を踏まえ、2回目の受験にあたって意識したことは以下の5つです。 ①学説や判例を常に疑い、自分の頭で考える。

司法試験は複雑な問題が多く、学説や判例を参考にできない ものもあります。そのため、学説や判例の弱点を補完する自説を 考えたりしていました。

#### ②原則から書く。

たとえば伝聞証拠であることを書かずに、いきなり伝聞例外の検討を するなど、原則を飛ばす癖がありました。この癖を直すためにふせん に「原則から書く」と書いて勉強机に貼っていました。

③典型論点は簡潔に、難しい論点や初見の論点は丁寧に書く。

典型論点は、よく勉強しているため、長々と書いてしまいがちです。 しかし、それはライバルも同じなので、論証は簡潔にまとめ、当てはめで 勝負すべきだと考えました。逆に、難しい論点や初見の論点は、 ライバルも困惑するはずです。この場合は、自分なりの論述を丁寧に 展開して、問いに答える姿勢を見せるようにしていました。

#### ④ 一文は短く。

一文が長いと、文章の意味が的確に伝わりにくいです。

#### ⑤字は大きく。

急いで字が乱れても読みやすいように、大きい字を書くようにしました。 受験において大事なのは、どの教材を使用するかということよりも、 上記のような意識をもつことです。使用する基本書や問題集は、 定評のあるものなら何でもいいと思います。最後まで諦めずに 頑張ってください。

## 「ロースクール生活と司法試験受験」



私は未修コースで入学し、ロースクール で3年間学びました。学部時代は4年生に なるまで法曹を志していなかったため、

北中 桜子

2022年3月 法学未修者コース修了

ロースクールに入学するまでは、司法試験の勉強をしている 友人もおらず、どのように司法試験合格を目指せばよいかも わからない状態でした。そんな私が司法試験に合格することが できたのは、ロースクールに入学し周りの人間関係に恵まれ、 友人や先生方のサポートを受けることができたからだと 考えています。

学習面ではとにかく授業をまじめに聞き、復習するように 努めました。その結果、3年間で司法試験過去問などを除けば、 ロースクールで学習した内容だけで十分な学習をすることが できました。

また、司法試験までは知識面の問題も勿論ありますが、 どちらかといえば緊張感やプレッシャーなど精神的ストレス が大きいことが私にとっては大きな問題でした。勉強以外の 内容を相談することができる友人が周囲にいたことは精神的 に大きな支えになりました。

勉強の内容は授業を重視し復習していましたが、勉強の 仕方については試行錯誤し、自分の勉強方法を確立するのに とても苦労したこともあって、ロースクール生活の修了間際 まで大変悩みました。しかし、周囲の人々の助けがあり、自分 を信じて受験し、合格できたことに感謝しています。これから 勉強を始められる方々にはロースクールに入学した最初から、 しっかりと計画を立て、自分に合った勉強方法を見つけて ほしいと思います。

# 修了生との連携「OULS修了生が語る ただいま法曹中!」



高等司法研究科では、昨年末から、修了生と連携して、有益な法情報 を社会に発信し、それを社会の中で共有しようという企画を開始して います。題して「OULS修了生が語るただいま法曹中!!。ダジャレ含み のタイトルですが、中身はいたって真面目です。普段は離れたところで 活躍する修了生同士がオンライン上で集い、一つのテーマをめぐって、 縦横に語ってくれています。そこで交わされた議論を録画・編集し、 本研究科のウェブサイト上に掲載して、YouTube動画の形で配信 しています。

第1回動画のテーマは「法教育」でした。そこでは、実際に法教育 (法律専門家ではない一般の人々が、法や司法制度、これらの基礎に なっている価値を理解し、法的なものの考え方を身につけるための 教育)に携わっている3人の弁護士(飯田亮真氏、夏目麻央氏、内藤 有啓氏)が、自らの実践を踏まえつつ、法教育に関心を抱く人たちに 向けて、法教育の意義と課題を熱く語っています。特に、法律家と教師 という2つの視点からの議論は参考になります。

第2回動画は「グローバル法曹」をテーマに、OECD日本政府代表部 に籍を置く髙城潤氏と国際法務を手がける弁護士の平野悠之介氏 が、グローバルな法領域で活躍する法曹を念頭に置き、パリと大阪 でインターネットを介して対談してくれました。自らもグローバル法曹 として活動する2人が、現在と未来の法曹の職域を関連づけ、国際社会 における今後の法曹のあり方を展望する様は見応え十分です。

第3回動画は現時点での最新版です。テーマは「弁護士夫婦」でした。 修了生同士で結婚し、ともに弁護士として活動している2組の夫婦 (中島夫妻と松岡夫妻)に登場いただき、後輩夫婦が先輩夫婦に インタヴューするという形式で対論してもらいました。弁護士夫婦なら ではのエピソードの数々は、修了生同士の夫婦が案外多いことから

推して、法曹志望者 のライフプランにも 寄与するところが 大きいでしょう。

高等司法研究科 は、これからも修了 生の皆さんとともに、 研究科の内外に向 けて、有益な法情報



第3回「弁護士夫婦」のひとコマ

を発信していきます。第4弾、第5弾の動画企画も、今後、できるだけ間を 置かずに、打ち出していきたいと思っています。修了生の皆さんのご協力 を期待しています。なお、本研究科に勧めたい企画立案がございましたら、 ぜひお知らせいただきますようお願い申し上げます。

高等司法研究科公式 YouTubeチャンネル